

<2019年度 ハローオリピズム事業>
オリンピック教室

実施報告書

千葉県 銚子市立第五中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日 : 2019年6月14日 (金)

■ク ラ ス : 2年1組 (31名) 、2年2組 (30名)

■オリンピアン : 小塚 崇彦 先生 (スケート/フィギュアスケート) 【出場オリンピック/バンクーバー大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・運動と座学の2時間を通じてオリンピックについて学んでほしいと授業の目的を確認。
- ・オリンピアンが大切にしているオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、最後まで頑張る」「フレンドシップ＝友情、仲間を大切にする」「リスペクト＝敬意、尊重、感謝、ルールを守る」と説明し、この3つの言葉を頭に入れて授業に取り組んでほしいと伝えた。

3. 主運動



- ・大縄跳びを実施。90秒間で引っかかっても続きから数える。作戦タイムを設け、どのようにすれば沢山跳べるかチームで相談する。

4. まとめ



- ・冒頭に伝えたオリンピックバリューを振り返り、頭を使って作戦を立てること、皆で意見を出し合うこと、声を掛け合い、ルールを守ることについて、このすべてがオリンピックバリューにつながっている、と伝え、運動の時間に取り組んだ内容を忘れずに座学の時間を迎えてほしいと話し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・運動の時間を通して、オリンピックが大切にしているオリンピックバリューを感じてもらえたのではないかと話す。
- ・バンクーバー大会の映像を見せながら、フィギュアスケートのショートプログラムのルールやジャンプ・スピン等の技について解説。

3. グループワーク



- 個人発問：運動の時間に感じたことを、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
 グループ発問：体育祭や文化祭に向けてオリンピックバリューをどのように活かせるか考えてみよう。
 発表：「負けていても一生懸命頑張る」「ピンチの時でも諦めない」「最後まで全力で走り切る」(エクセレンス)
 「クラスで協力し合い」「チームワークを高める、全力で応援する」「お互いに声を掛け合う」(フレンドシップ)
 「お互いを認め合う」「関係者に感謝の気持ちを持つ」(リスペクト)

4. まとめ



- ・各班の発表を確認し、例を挙げながら解説をした後、体育祭や文化祭において、苦手だなと感じている人を助けてあげることはフレンドシップであり、お互いに認め合い、一緒に頑張れば、よりチームがよくなる。そして支えてくれる先生や周りの人に感謝することが大切である。
- ・結果に向けて何をしなければいけないのか等、日常生活の中にオリンピックが大切にしていることがいっぱい詰まっている。この3つの言葉を食育や体育祭、文化祭等の場においても感じてもらうことができる。今日のことを忘れずに今後もオリンピックバリューを意識して取り組んでほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日 : 2019年6月14日 (金)

■ク ラ ス : 2年3組 (30名)

■オリンピアン : 小菅 寧子 先生 (セーリング) 【出場オリンピック/北京大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・オリンピックとはどのようなものなのか、オリンピックバリュー（オリンピックの価値）について学んでほしいと授業の目的を確認。
- ・①一生懸命、全力で行う、②チームで協力して頑張る、③ルールを守る、この3つをしっかり守って運動をしてほしいと話し、準備運動に移る。

3. 主運動



- ・大縄跳び（90秒×3回）を実施。跳び方は8の字跳びと全員跳びで3回の合計回数を競い合った。都度、作戦タイムを設け、チーム毎に話し合いを実施。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは日常生活の中でどんな風に当たり前にあるのかを座学の時間に確認していくと伝え、最後に皆で拍手を送り、授業終了。

■授業のながれ：座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・セーリング競技の1つであるウインドサーフィンの選手であると自己紹介し、映像を見せながら競技のルールについて説明。
- ・オリンピックバリューについて、自身の経験を踏まえ、「エクセレンス＝卓越、一所懸命頑張る、諦めない」、「フレンドシップ＝友情、協力、仲間」、「リスペクト＝敬意／尊重、ルールを守る、感謝」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：体育祭に向けてどのようなことを意識して取り組むか、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：「仲間と協力する」「すべてに全力で取り組む」「負けても諦めず最後まで全力でやる」(エクセレンス)
 「声かけや応援をする」「クラス対抗リレーで勝つために個人の長所、短所を活かした作戦を仲間と協力して立てる」(フレンドシップ)
 「全てのことに感謝して楽しむ」「他のクラスを尊重して取り入れられるものを探す」「相手に対して敬意を持つ」(リスペクト)

4. まとめ



- ・スライドを見せながら、北京大会の思い出や現在の活動について紹介。
- ・オリンピックバリューは皆の日常生活の中にも見出すことができる。今日のオリンピック教室で学んだことを忘れずに、さまざまなことに挑戦してほしい。
- ・どのような夢や目標を目指すにも体が資本になるので、自分が食べたものが自分の体をつくることを意識し、将来のための体づくりをしてほしい、と伝え、授業終了。

■ 集合写真



■ 記念品贈呈



■ 修了証贈呈

